



## 職場訪問

吉野さんが取材時に担当していたのは、上市市内の工場新築工事の現場。世界的な資材の不足・調達の遅れを見据え、着工前に「時間がかかる資材を仮発注し、設計者と協議して省力化できる材料に変更した」と現場代理人の役割を果たす。

熱遮断材の施工は初めてだったが「細心の注意を払いながら屋根・外壁の内部に設置し、高い機密性と良質な仕上がりを目指した」。全職員・作業員の体調管理も重要な役割で、記録的な猛暑の中、熱中症対策に注力し、工期内に無事故・無災害で完成させた。



## 技術者物語

# Yamagata

亡き父の遺志継ぎ  
歩む建設業の道  
安全第一の現場代理人

建築部課長  
**吉野 道洋さん**  
Michihiro Yoshino  
1980年12月生まれ。山形県南陽市出身。  
1級建築施工管理技士

羽陽建設 株式会社  
本社 / 〒999-3123  
山形県上市市美咲町2-1-95  
TEL.023-672-1326 FAX.023-672-4405  
URL <https://www.uyoukensetsu.co.jp/>

上司・先輩  
から一言

建築部長  
**安田 勝氏**



吉野君が入社した後の数年間は建築部の新規採用がなく、その間一番の若手としての時期が長く続きました。本人としては複雑な思いだったかもしれませんが、その分みんなに可愛がられながら多くの先輩たちのもとで多くの経験を積み、それが彼の大きな財産になったと思います。加えて持ち前の明るさとコミュニケーション力の高さから多くの協力業者や職人さんに慕われる管理者に成長してくれました。

今後は建築部門の中核的役割を担っていくとともに、後輩の指導・育成にも注力してもらいたいと思っています。

## 職人・資材不足の難局も 交渉で乗り越え名建築具現化

「建物が無事故・無災害で完成した時は、病気で亡くなった父の墓前に無事現場が終わったことを報告している」と語るのは、山形県上市市内にある総合建設企業・羽陽建設に勤務する吉野道洋さんだ。現場代理人としてのデビューから約20年。この間、吉野さんは「全作業員を毎日無事な姿で家族の元に戻すことは現場を預かる者の重要な使命だ」との決意のもと、数多くの建築物を安全第一でつくりあげてきた。

吉野さんは、伝統ある赤湯温泉や「鶴の恩返し」の伝承地として知られる山形県南陽市で誕生した。育った家は大工だった父親の道具・資材置き場を兼ねており、「やんちゃで落ち着きがなかった。ものづくりが好きで、図工が得意科目だった」という吉野少年にとって楽しい遊び場の一つだった。「鉋(かんな)は大事な道具だ。刃も付いているから危ない」と父親に怒られながらも、くぎやとんかちを使い、端材でロボットなどをつくって遊ぶ少年期を過ごした。

建設業界を意識し始めたのもこの頃で、きっかけは父親が脳梗塞を患ったことだ。当初は軽症だったが、足場や屋根などの高所作業中での突発的な再発による転落事故の危険などを考慮し、父親は大工を辞めてトラックの運転手に転職した。それ以降、吉野さんは度々父親がものづくりへの未練や葛藤をにじませる姿を目にし、「本音は大工への復帰を望み続けている。それなら代わりに思いを引き継ごう」と建設業への志を抱いた。

高校は県立米沢工業高校建設系建築科コースに進学した。学業に励む一方、放課後は地元の温泉旅館でのアルバイトに汗を流した。人気温泉地とあって特に繁忙期の忙しさは目も回るほどだったが、中学時代に長距離走選手として鍛えた体力を生かし、高校の約3年間を勤め上げた。その中で、さまざまなお客さんとのやり取りを重ね、コミュニケーション能力に磨きをかけた。

就職活動は、高校に求人寄せた羽陽建設が「建築部門の募集で、実家から近く、少しでも雪が少ない上市市だった」との理由から迷うことなく応募し、1人だけの採用枠を見事に勝ち取った。

入社後は中学校体育館新設工事の現場に配属された。高校で専門教育を学んだが、先輩女性技術者から指導を受ける中で「現場管理について知っているつもりだったが」と自身の未熟さを痛感。建物に基準線を引く墨出しや現場の写真撮影方法などの基本を一から学び、職人さんからも専門用語や使い方などについて教えを受けて知識を深めた。

初めて現場代理人を任されたのは20代前半での戸建て住宅だ。1人で全責任を負うプレッシャーに押しつぶされそうになったものの、「託してくれた施主のご家族のために、より良い家をつくらう」と悩み、先輩や上司たちの助けを得ながら業務に取り組んだ。その結果、施主から「良い家をつくってもらった」と感謝の言葉をかけられ、達成感に満たされた。

その後、数々の現場を経て現場代理人として成長を重ねた吉野さんは、山形県出身で東北地方を代表する建築家・本間利雄氏が手掛けた上市市立上山小学校を始め、蔵王坊平高原のアスリートリカバリーセンターや半導体関連企業の工場新築など、地元・山形で多くの建築工事に携わった。ただ、そのいずれも「楽な現場は1つとしてなかった」と話す。小学校の場合、東日本大震災の影響で着工時に職人・資材が不足していた。吉野さんは「電話帳片手に片っ端から付き合ひのない事業者さんにも電話して何とか協力を得た」と、培ってきたコミュニケーション能力を生かしてこうした難局を乗り越え、名建築を世に具現化してきた。

現場を監督する上で重視するのは「施工時と施主の安全性」と力を入れる。発注者にはあらゆるリスクを減らすため、足場の設置などに必要な初期投資や高品質化の必要性を理解・承認してもらう。その上で工程を正確にイメージしながら進めることで安全で手戻りのない施工を心掛けている。趣味はドローン撮影で、「上棟する瞬間が好き」と現場の空撮なども自ら担っており、オフの日は雲海なども撮影している。

吉野さんが歩む道は幼き頃に父親から引き継いだものだった。だが、公私ともに「ものづくり」の魅力に漬かる日々を楽しみつつ、今日も愛するふるさとのまちに建物をつくりあげている。

6:00 起床 子供と弁当の準備。 (ある程度、前の晩に準備しておく)	5:00	6:00 朝食 朝食は、パンとコーヒー。
6:50 出勤 道路が湿る前に早めに出発。	6:00	7:00
8:00 体操・朝礼 作業員さん全員と体操。 その後、世間話を交え安全について朝礼で指示。その後、異変や異常がないか、必ず現場を一周。	7:00	7:30 現場到着 まずは、メールをチェック。 メールの内容によっては、今日の仕事内容が変わる。
12:00 昼食 娘が作った弁当を食べる。	8:00	9:00
14:00 打合せ 施工設計事務所関係業者との打合せ。 進捗状況の説明や要望及び協議事項の確認 ※長いと、20時くらいまでかかる場合もある。耐久6時間打合せ。	9:00	10:00 休憩 10時と3時は15分の休憩。 さて、お昼まであと一踏ん張り。
17:30 現場作業終了 必ず、職長さんに「お疲れ様でした」の挨拶は欠かさない。 書類作成と打合せ議事録のまとめ・施工図のチェック等。	10:00	11:00
24:00 就寝	11:00	12:00
	12:00	13:00 作業打合せ 午後からの作業変更の確認と翌日の作業内容の確認。職長さんとコミュニケーションを図る。
	13:00	14:00
	14:00	15:00 休憩 休憩時間とはあるが、タバコもやめたので休憩しているって感じはない。
	15:00	16:00
	16:00	17:00
	17:00	18:00
	18:00	19:00
	19:00	20:00
	20:00	21:00
	21:00	22:00
	22:00	23:00
	23:00	24:00
	24:00	24:00



教えて  
建設用語!

**ハト小屋**

屋上に設置するハト小屋に似た凸状の箱。設備機器が集中する屋上に、防水層を直接貫通しないで電気・設備配管、ダクトなどを立ち上げる場合に必要になる。